

(様式1) 学校評価

<評価:A(1・2) B(3) C(4・5) 数字はアンケート結果を加味する場合>

項 目		重点目標 (○:市の重点目標 ◇:学校の重点目標)	キーワード	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校運営協議会委員(評価者)の 意見等
学校運営	教育課程	○特色のある教育課程を工夫するとともに、PDCAサイクルを意識し、評価改善に努める。 ◇PDCAサイクルを生かし、教育活動の質の向上に取り組む。	カリキュラムマネジメント PDCAサイクル 社会に開かれた教育課程 教科等横断的な視点	・道徳科を含む教科授業を年間指導計画に従い確実に実施するとともに、少人数指導やTT等の機能を生かすなどして、教育課程の質及び量の充実を図ることができた。	A	・各学年の総合的な学習の時間の学習活動を精査して、年間指導計画を整備する。 ・特別支援学級については、年度毎の生徒の実態に応じて、また交流学习の参加状況を踏まえて、教科担当者を適切に配置する。	
	組織運営	○校務のバランスを考えた人材配置に努める。 ◇各公務分掌のリーダーを中心として組織的・機能的な運営に取り組む。	適材適所 研修の充実 働き方改革	・学級担任を兼ねない学年主任・副担任を配置できたことで、学年経営等が円滑であった。 ・学習指導主任を中心に、年間を通してチーム学校で「学校課題」に取り組むことができた。また、各校務分掌のコーディネートにより、外部有識者を招聘したり小学校と共催したりするなど、質の高い職員研修を実施することができた。	B	・業務改善・働き方改革については、より具体的で実践的な取組が必要である。 ・部活動の地域移行の動きを踏まえて、部活動の再編について具体的な検討をスタートする。	
	環境整備	○◇校内外の整理整頓、環境整備に努める。	施設利用 安全点検 教室配置	・生徒の清掃活動への取組も概ね良好で、校内外の環境は整備されている。 ・生徒一人一台端末整備により、教師が大型モニターを授業で使用する機会が増えているが、移動式のものを使用している状況である。 ・理科室のひとつの定員が32名で、クラスによっては移動型の長机等を入れて授業を行っている。 ・エアコンが設置されていない特別教室がある。 ・外トイレが老朽化している。	B	・R06年度以降も無言清掃の推進を図るなどして、校内外の環境整備に努める。 ・各クラスへの大型モニターの設置、夏季も調理実習で使用する調理室へのエアコンの設置を中心に要望を続ける。	・環境が人を変えるので、今後も環境整備に努めてほしい。 ・過去には地域の人が入って花壇の整備をしたことがあったので検討してみては。
	地域連携	○地域連携教員を要として、地域とともにある学校づくりに努める。 ◇各教育活動のねらいの達成に向けた効果的な地域資源の活用を進める。	地域とともにある学校 コミュニティ・スクール 地域コーディネーター	・地域の人的・物的資源を活用した地域連携活動の充実を図ることができた。 ・教育課程に位置づけのできる、教科領域等との関連がある活動を実践することができた。 ・地域連携活動における優れた実践者を招いた研修会を実施するなどして、学校運営協議会活動の充実を図ることができた。	A	・PDCAサイクルにより、現行の各種活動を次年度以降に更に充実できるようにする。 ・地域連携教員だけでなく、全ての教職員が地域連携活動への理解を深めることで、活動の一層の充実を図ることができるようにする。	・多くの活動で地域人材を活用している。今後は、烏山高校とのコラボレーションも模索するべきか。

項 目		重点目標 (○:市の重点目標 ◇:学校の重点目標)	キーワード	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校運営協議会委員(評価者)の 意見等
知 の 教 育	学習指導・ 各教科等	○学ぶ意欲を引き出し、主体的に学 ぶ児童生徒の育成に努める。 ◇主体的・対話的で深い学びの実践 に向けた授業の改善に取り組む。	主体的・対話的・深 い学び	・相互授業参観は、授業改善及び指 導力の向上に有効であった。 ・相互授業参観を4人チームで実施し たが、時間割を組むのが困難なこと が多かった。 ・学習課題やねらいを、自分事として 捉えたり、日常生活と関連させたりで きるように設定したときは、主体的に 学ぶ様子が見られた。 ・対話的な授業が得意な生徒が多く、 ただ話し合うだけでなく、目的意識を もって対話しながら思考を深めること ができるようになった。 ・課題解決的な学習で、課題を発見 するところが弱い。 ・長期・中期目標では意欲を維持する のが難しい生徒が増えている。	B	・チームではなくフリーで相互授業参 観を実施する。目的や意義を十分に 共有し、全員が授業を公開できるよう にする。 ・効果的な振り返りのさせ方やフィード バックの仕方について研究を進め る。研修を通して全職員で共通理解 を図る。 ・対話が活性化するような問いの質を 高める。 ・単元を通して身に付けさせたい力を 明確にし、連続性のある指導をできる ようにする。 ・スモールステップで最終的な「なりた い自分像」の達成を目指せるようにす る。	
	情報教育	○一人一台の情報端末の有効活用 に努める。 ◇各教科・領域におけるICTの活用 法の研究を進める。	プログラミング教育 情報活用能力	・まなびPCについて、多くの教科で学 習活動が工夫されている。主に、意 見やデータの共有・処理、活動の様 子の動画撮影・録音、振り返りなどの 場面で活用されている。 ・ICTを使用することで、思考や対話 が止まってしまうことがあるので、使 用する場面を考えたい。	B	・ICT活用を工夫した相互授業参観を 実施する。 ・まなびPCを持ち帰らせたときに、ど のような課題が適切かを検討してい く。	
	国際理 解教育	○英語に触れ、世界を学ぶことで、豊 かなコミュニケーション能力の育成に 努める。 ◇諸外国の生活や文化を理解するた めの指導内容を明らかにした指導の 工夫を図る。	SDG's 異文化理解 英語コミュニケー ション	・SDG'sや国際理解について、各教 科で折に触れて取り上げている。教 科書に掲載されている箇所を参照し たり、ウェブ上のコンテンツを利用し たりすることもある。 ・ALTを活用した対話活動(英語科)が 今年度は実施できていない。昨年度の 取組では、普段はコミュニケーション 活動に消極的な生徒もよく話していた ので、残りの期間でぜひ実施したい。	B	・ALTを活用した対話活動を英語科で 実施する。異文化交流として、英語科 以外の国際理解活動でALTを活用す る。 ・教育課程上の国際理解教育も大切 だが、外国籍の生徒が増えているの で、教育活動全体として異文化の相 互理解がさらにできるとよい。	

項 目		重点目標 (○:市の重点目標 ◇:学校の重点目標)	キーワード	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校運営協議会委員(評価者)の 意見等
心の教育	児童・生徒指導	○自己指導能力の育成を図り、課題を解決できる児童生徒の育成に努める。 ◇「居心地のよい学校」をめざし、生徒の自己指導能力の育成に取り組む。	いじめ 不登校 自己指導能力 キャリア教育	・人権強調週間を活用し、日替わりでの講話を実施。 ・「生徒心得」を生徒と教職員で議論しながら検討。 ・ICTを活用した「心の健康観察」を実施。 ・学校評価で、「学校生活が楽しい」という質問に肯定的に答える生徒が94.5%。	A	・「心の健康観察」の内容や方法については、生徒の状況を見ながら修正・改善する。 ・「生徒心得」の見直しについては、保護者の意見も適切に取り入れる。 ・キャリア教育の具体策を立案する。	
	特別支援教育	○共生社会に向け、自分の意見をもち、他者の意見を認め合う雰囲気づくりに努める。 ◇一人一人の教育的ニーズを把握し、必要な支援や適切な指導に取り組む。	インクルーシブ ユニバーサルデザイン 合理的配慮 自立活動	・お互いを認め合う雰囲気ができている。 ・情報共有を密にすることで、通常クラスとの距離感が縮まっている。 ・学校行事と一緒に参加することで、交流学級への抵抗感が減少している。	A	・通常学級の個別支援が必要と思われる生徒に対し、具体的な支援ができるように検討していく。 ・情報共有をさらに密にしていく。	
命の教育	健康教育	○自分の健康を管理し、健やかに生活する児童生徒の育成に努める。 ◇担任と養護教諭、生徒指導係、SC等との連携を密にし、生徒一人一人の心身の健康管理と適切な支援に取り組む。	保健教育 保健管理	・不登校傾向生徒に関して、SCやSSW、関係機関との連携を行うことができた。 ・別室登校生徒への手厚い支援により、登校できる生徒が増えた。 ・保健室に来室した時に自分の体調について考える指導を行った結果、自分の生活習慣をふり返って体調管理について考える生徒が多くなった。	A	・別室登校生徒等が教室に戻れるように段階を踏んだ支援を行っていく。 ・中学校卒業後も自己管理ができるような取り組みを継続していく。	
	安全教育	○危機意識を高め、安全な生活について判断・実践できる児童生徒の育成に努める。 ◇自らの危険を予測・回避でき、健康で安全な生活を送ることができる生徒の育成に取り組む。	危機管理 生活・交通・災害安全	・救命救急講習や交通安全教室では、外部講師による授業を実施したことによって、生徒の興味関心を高めることができた。 ・避難訓練では、消防署職員から専門的な知見から指導、助言をいただいた。 ・教職員が、組織的に対応しているので、生徒の問題行動や・トラブルを未然に防ぐことができた。	B	・生徒の継続的な学びにつなげるために、教科横断的な学びができるよう年計などの見直しを行う。 ・危機管理マニュアルの見直しに取り組む。	
	食に関する指導	○◇食への関心を高め、健康維持に励む児童生徒の育成に努める。	給食管理 アレルギー	・1年生の家庭科の授業で、栄養教諭を招いての献立作りを行った。専門的な話を聞き、食に関して興味関心を高めていた。 ・市学校給食センターとの連携を密にとり、安心安全な給食の提供を行った。	A	・家庭科の授業だけではなく、保健体育や理科、社会の授業でも、食に関する話題を出しながら、生徒の興味関心を高める。	